

佐々木 亮 (ヴィオラ)



東京芸術大学附属音楽高等学校を経て東京芸術大学卒業。在学中、安宅賞受賞。芸大オーケストラと共演。1991年、現音室内楽コンクール第1位、「朝日現音賞」受賞。1992年、東京国際室内楽コンクール(民音)第2位、「ルフトハンザ賞」受賞。1992年秋より、ニューヨーク、ジュリアード音楽院入学。アスペン音楽祭、マルボロ音楽祭に参加。マルボロ音楽祭ではMusicians from Marlboro Tourのメンバーに3年連続で選ばれ全米各地にて演奏した他、2000年のマルボロ音楽祭50周年記念コンサートに出演。在米中リンカーン・センターでリサイタルの他ソロ、室内楽奏者として全米各地にて活動、内田光子、ヒラリー・ハーン、ナージャ・サレルノ・ソネンバーグ、リン・ハレル、デイヴィッド・ソイヤール等と共演し、好評を博

した。また弦楽アンサンブル Sejong Soloists、ヴィヴァルディ・ヴィルトゥオージのメンバーとしてカーネギー・ホールなど各地の主要ホールで演奏した。

これまでに掛谷洋三、澤 和樹、田中千香土、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫に師事、また室内楽をジェイコブ・ラタイナー、フェリックス・ガリミアに師事。

2003年帰国。2004年NHK交響楽団入団。2008年より首席奏者。2008-2014年まで岡山潔弦楽四重奏団メンバー。東京クライスアンサンブルなど室内楽奏者としても幅広く活動している。また演奏活動の傍ら桐朋学園大学、東京芸術大学、東京音楽大学、洗足学園音楽大学にて後進の指導にも当たっている。

CDはEMI/ Angelよりチャイコフスキー:弦楽六重奏曲&ブラームス弦楽六重奏曲に参加。2016年9月には RCA/Sony よりパーヴォ・ヤルヴィ指揮NHK交響楽団、トゥルルス・モルク(チェロ)との共演による R. シュトラウスの『ドン・キホーテ』がリリースされた。

2024年より、今井信子、アントワン・タメスティを継ぎ、ヴィオラスペースのプログラミング・ディレクターを担当する。